

第 37 回 NPO 法人 口から食べる幸せを守る会 実技セミナーin 瀬峰

開催報告

会期：平成 28 年 10 月 8 日(土)

会場：宮城県立循環器・呼吸器病センター

主催：三浦病院

宮城県立循環器・呼吸器病センター

共催：NPO 法人 口から食べる幸せを守る会®

助成：公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

【開催目的】

「口から食べる」支援のための安全で効果的な口腔ケア、ポジショニング、食事介助など、食事支援技術について、知識・技術のスキルアップを図れること、また、患者さんの「食べ続けることの喜び」や「食べたい願い」に繋げるための地域連携の機会とすることを目的とする。

【講師・アドバイザー】（敬称略）

氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
小山 珠美 (神奈川)	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 理事長 JA 神奈川県厚生連 伊勢原協同病院	看護師 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者
竹市 美加 (大阪)	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 副理事長 ナチュラルスマイル西宮北口歯科	摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者
一瀬 浩隆 (愛知)	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 理事 あい訪問歯科クリニック 院長	歯科医師 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者
佐藤さと子 (宮城)	気仙沼市立病院	看護師 KTSM 実技認定者
三束梨沙 (宮城)	気仙沼市立病院	言語聴覚士 KTSM 実技認定者
熊谷良弘 (宮城)	社会福祉法人 なかうつみ会 特別養護 老人ホーム恵潮苑	看護師 KTSM 実技認定者
高橋瑞保 (山形)	山形県立中央病院	管理栄養士 KTSM 実技認定者
佐々木美代子 (宮城)	宮城県立循環器・呼吸器病センター	看護師 KTSM 実技認定者

セミナーの様子

小山先生 講義



ポジショニング



ポジショニング



口腔ケア



食事介助（ベッド）

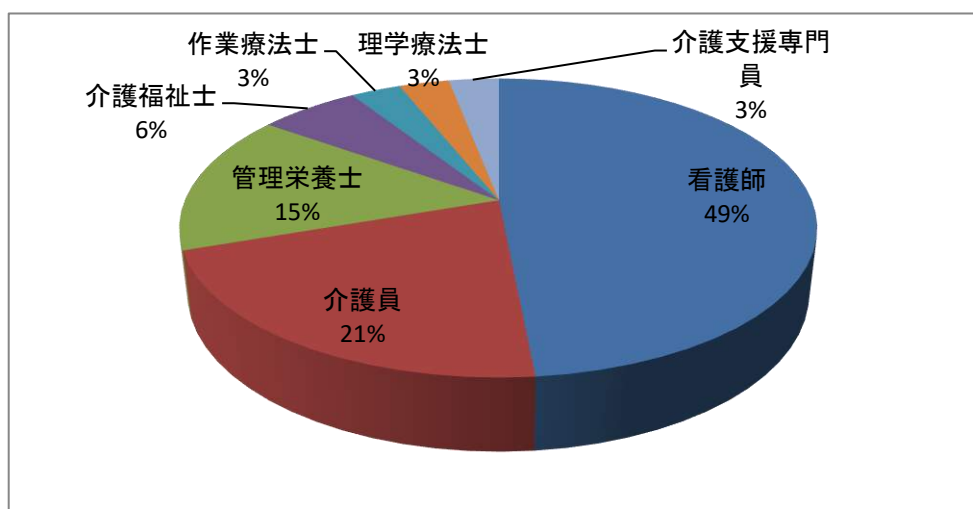


食事介助（車椅子）



アンケート集計結果（回答者：32名 回収率：97%）

【Q1:職種】



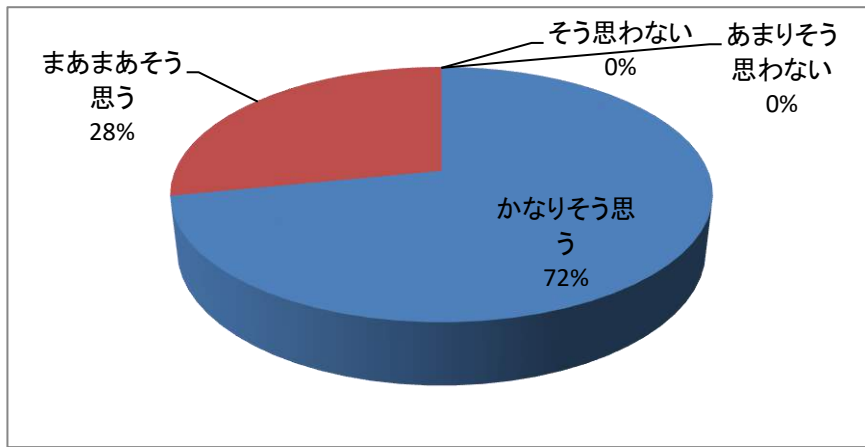
★KTSM実技セミナーへの参加回数と参加理由

- ・参加者全員が初回参加です。
- ・自分が行っているポジショニングが、患者さんの姿勢に合っているか確認するため、食事介助の技術を学ぶため。
- ・患者さんの家族から最近飲み込みが悪くなった気がするけど、どうしたら良くなりますかと聞かれ、返事ができなかつたのがきっかけ。
- ・上司のすすめあり、テーマに興味があったため。
- ・職場での口腔ケア、食事介助の仕方を学びたかった。

- ・入院している患者さんで、口の中に溜め込んでしまう方がいて、スムーズに飲み込んで食べてくれるコツを知りたくて参加した。
- ・嚥下機能のメカニズム、正しいポジショニングを知り、誤嚥しない正しい食事介助を学びたく参加しました。
- ・どうすれば食べられるのかまた、それをどうやりこなすかを今回の研修で学びたいです。
- ・管理栄養士として食事提供や食形態についての知識はあるものの、食べさせ方やスクリーニングの見極めの知識がなく学んでみたいと思いました。
- ・リハビリ職として患者様に関わらせて頂いている中で、食事が食べられない（自力でも、介助でも）患者様へのリハビリを行う中でも重要だと思ったから。
- ・自分の病院でK T S M実技認定者の研修を初めて受講した時、ポジショニングや口腔ケア、食事介助、今までの自分がやっていた事との違いと、知識のある看護師に援助してもらうことでは大きな違いがあると感じ、ぜひ研修に参加して学びを深めたいと思った。
- ・施設職員で指導的立場にあった自分が職員にも食事介助やポジショニングの大切さを伝えられなと思っていたところに、NHKのプロフェッショナルで小山先生の取り組みを見て感動しました。今回この様に指導を直接受けられて本当に幸せです。ありがとうございました。
- ・食事介助に苦勞しているので、技術を身に付けたかった。
- ・院内での研修は行っていたが、小山先生がいらっしゃる聞きぜひ参加したいと思い参加しました。
- ・実技をすることで患者、介助される者と介助する者の気持ちがわかるため。
- ・経口摂取の難しい患者の入院が多くなり、根拠のある介助が必要と思ったから。
- ・当直の時、病棟の食事介助を依頼されることがあるが、患者はむせたり、飲み込んでもゼロゼロと喘鳴が残ったり、自分の介助が悪いのか患者側の問題か分からなかった。どうにか、うまく介助できるようにしたいと思った。
- ・老人福祉施設に勤めて、摂食嚥下の興味をもった。TVで小山先生の番組をみて、食べさせる技術を習得したいと感じた。またひとりで頑張っても、うまくいくことではないので職場の人を巻き込んで参加できてよかった。
- ・利用者の口腔ケアに対する仕方と職員への周知をするための学び。
- ・利用者様に対して（麻痺がある方、姿勢が安定しない方など）どのようなポジショニングをすれば良いのか、安全に食事介助する技術を学ぶため。
- ・食事や車椅子時のポジショニングを学びたかった。
- ・食事介助のスキルアップのために参加しました。
- ・病院さんにお誘い頂いて。
- ・職場より行くように言われたため。
- ・講義だけではなく、演習が多いので、入所者側の立場も味わえるのではないかと思い参加しました。
- ・食べさせ方、今までの介助を見直しました。
- ・病院栄養士からの勧めがあったため。
- ・嚥下に障害をもつ患者と接する機会が多かったから。
- ・上司に勧められて。

- ・摂食嚥下に対する知識を深めるため。
- ・摂食嚥下に興味があり、知識を高めたいと思ったので。

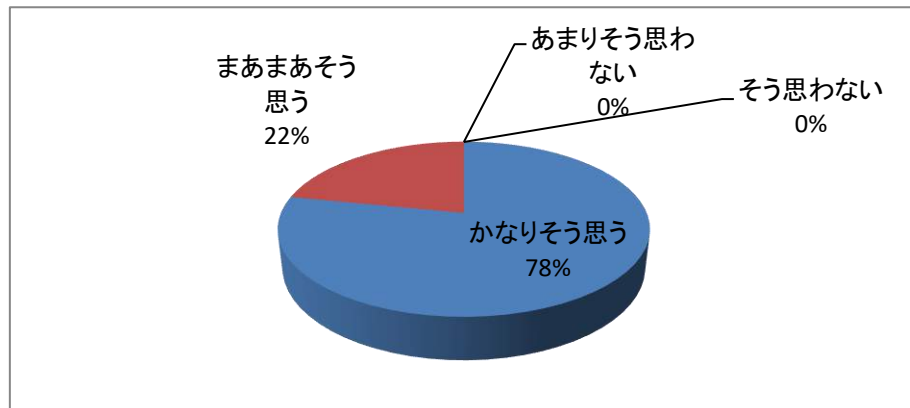
【Q2:セミナーの内容はスキルアップにつながりましたか?】



- ・ベッドの角度、手の位置、枕やクッションの使い方など、ひとつひとつ確認していくことの大切さを知ることができた。
- ・本人が何をみて、食べて美味しいと感じて頂けるように食事介助をしたい。
- ・当施設のやり方、かなり間違っている食事介助を行っていたことがわかった。
- ・口の中に入れる時は山やクラッシュにせず、スライスして入れてあげる。
- ・特にポジショニングの重要性を体験することで実感できた。
- ・食べる際、介助する際のポジショニングがとても大切だと思いました。患者さんにとって、負担の少ないポジショニングを今後行っていきたい。
- ・誤嚥性肺炎で入院する患者さんも多いので、ケアの際や家族指導などの時に役立てていきたい。
- ・本当に基本的な細かい事への取り組みの積み重ねと研究を続けている小山先生に指導して頂き、スキルアップしないと申し訳ないです。
- ・体験することで、今まで無意識に食べていたことを意識するようになり、どのような方法であれば受け入れやすい食事になるかを考えることができた。
- ・本日の実践を受けてかなりスキルアップにつながりました。これを帰ってからでも忘れずに実践します。
- ・口腔ケア、ポジショニング、食事介助の一連の流れを通して、基本中の基本しか知らなかったのので1つ1つの細かいところまで気づくことができスキルアップにつながったと思う。
- ・自分の技術を振り返り良くなった点が明確にされた。
- ・「食べさせる」という思いが「食べて頂く」という気持ちにかわった。
- ・短時間だったので、十分に知識につながっていないので。
- ・院内のNSTチームの勉強会でも学ぶことがあるが、最近聞いてみたいことが聞けてよかった。
- ・「食べる」ということに関し、食形態や嚥下にばかり目がいって、なぜの要因を検討していなかったことに気付けた。
- ・ポジショニング、食べさせ方でとても大きく違ってくることが実感できた。
- ・介助する時のポジショニングを知ることで実践につなげられる。
- ・内容はとてもためになりましたが、何度か回数を重ねていく必要があると感じました。

- ・口を開けるための声掛けやスプーンを舌にのせ方1つで違いことに気付けた。
- ・実技で患者の気持ちが十分にわかり、介助する見方がかわった。
- ・見て、聞いて、体験して、何となく理解できたように感じますが、自分で明日から実践することを考えると不安な部分があります。

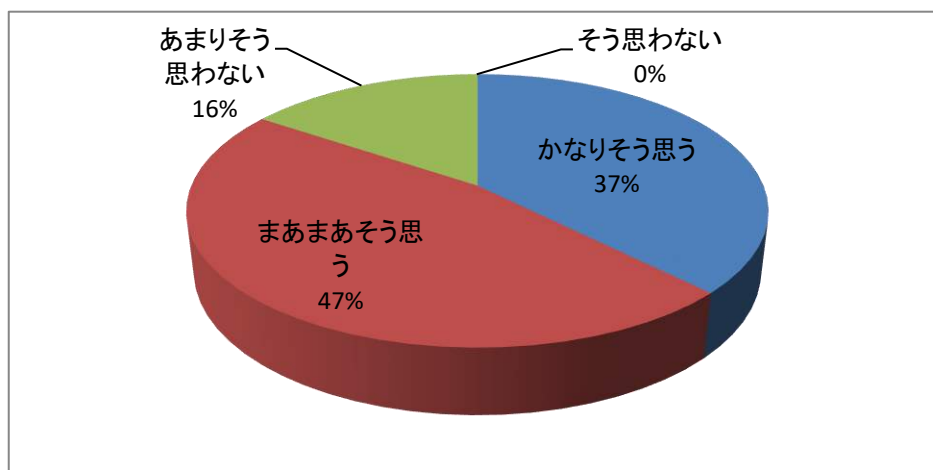
【Q3：今後の実践の場面で活用することができますか？】



- ・食事全般に一人で関わるのは大変だとおもいますが、他のスタッフと協力して関われば、患者さんの食事場면을良くすることができると思いました。
- ・誤嚥しない正しいポジショニング、患者の目線に合った介助、残存機能を見極め必要な援助方法、再度振り返り共有できる様に伝達したい。
- ・車椅子の安楽な姿勢のつくり方、ベッドのポジションを気をつけること。
- ・今までの意識が180度かわりました。毎日の食事介助、摂取不良があった方に活用していきたいです。
- ・車椅子の補正、タオル数本を入れるだけで、安定感が増す。誰でも簡単にできる方法なので、施設でも実施したい。
- ・ポジショニング
- ・楽しいはずの食事で、疲労感を与えてしまうのは、提供する側の知識のなさで痛感した。毎日の患者さんの食事の場面でほんの少しのテーブルの高さ、肩の高さなど、楽に食事がとれるように注意できると思う。
- ・口の開かない患者様の口の開け方、スプーンの入れ方、角度を実践の場面で活用したい。患者様の姿勢について活用したい。
- ・食事介助の場面で、食べさせる順番、スプーンも持ち方、運び方の工夫で全然違ってくるのでそれを実践したい。
- ・本日のセミナーを受けて実践でも活用できました。このことを忘れないで実践し、継続していきます。
- ・立場的に利用者様の処遇向上の為、常日頃職員にポジショニングと食事介助、口腔ケア、食形態の見直し等行っているのととても活用できます。
- ・より具体的な介助時の注意点や姿勢の保持について学べ、今後活用していきたいと思います。

- ・食事を介助する際の患者の視線や思いを考えながら楽しい食事が提供できるようにしていきたい。
- ・食事の時のラウンド、ポジショニング、スプーンテクニック、声掛けなど伝えて広めていきたい。
- ・一人一人の見直しを行いたい。
- ・ベッド上、車椅子移乗時の食事介助の際タオル、掛布団、枕を使用して行うものだったのでポジショニングもすぐに施設で活用できると思いました。
- ・食事介助やポジショニング
- ・食事摂取時の状況を確認して、本日学んだような姿勢で食事が摂取できるように改善していく。
- ・車椅子に座っている人、寝たきりでの食事摂取の人の感覚がわかりました。口まで介助で食べ物が運ばれる時の目で確認できるか、できないか、体の角度で美味しく感じるかとか、ちょっとしたことが大きな違いに繋がっていたんだという事がとても勉強になりました。
- ・食事介助など、リハスタッフ、介護スタッフに伝達してみんなが同じように介助できるようにしたい。
- ・まず、食後の口腔ケア時に行っていけると思う。ADLの低下した利用者様に対してポジショニングを使い姿勢を保って頂く。食事面での介助の際に今回学んだ介助を使っていきたい。
- ・日常的なケアの中で活用する事ができると思います。
- ・実際の食事介助の仕方、スプーンの使い方、口に入れる量、舌に入れる位置など、細かい部分と安定した姿勢の保持が大切であることを知る事ができました。
- ・毎日行うのは難しい所もありますが、他職種と連携し、口腔ケア、食事介助を行なっていこうと思います。
- ・ポジショニングなど準備に時間がかかると思いましたが、正しいやり方をすることで時間は短縮され患者にも良い結果となるので活用していきたい。
- ・実際の口腔ケアや食事介助の場面、食事介助では認知症で食べなくなってきた患者さんの対応に活用できる。
- ・患者の食事介助時
- ・車椅子の食事介助時のポジショニング。

【Q4：実技セミナーのような研修を自ら企画して行おうと思いますか？】



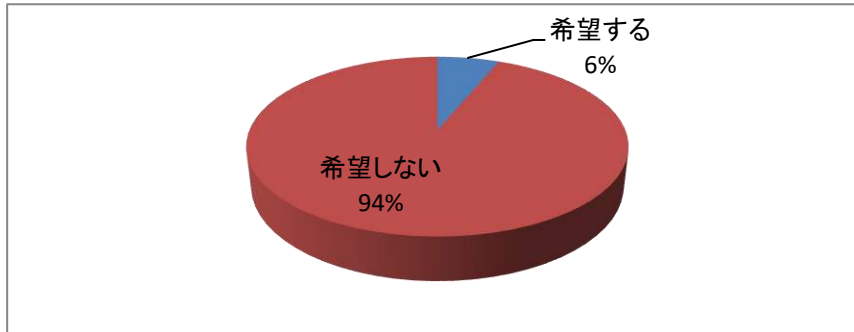
- ・看護師だけではなく学生や助手も含めてみんなで学べたら良いと思う。
- ・最近、食事介助の必要な方増えてきている中、介護される側、介助する側が落ちついた気持ちで、食べることの喜びを再認識できればと思います。
- ・車椅子でのポジショニングの仕方。
- ・ポジショニングや食事介助の指導。
- ・ただ、人に伝えるためには自分の中でも更なる勉強も必要。基礎知識をかためて、伝達研修を他職種連携で行いたい。
- ・本日の学びをまず、病棟内で伝達したいと思う。ポジショニングの大切さ、食事介助する際の注意点について。
- ・可能であれば、ぜひたくですが是非行いたい。
- ・まだまだ企画するにはまだ遠いので近いうちに考えます。
- ・口腔ケアの方法。
- ・施設内での伝達研修にて他職種に伝えたい。
- ・食事介助、ポジショニング。
- ・施設内の研修委員会を通して、今日参加してない職員へ伝達できれば良いと思う。
- ・当センターのコアチームと一緒にスタッフのスキルアップを行っていききたい。家族への指導もしていけると良いと考えます。
- ・今日の伝達講習をすることになっており、このような実技セミナーはスキルアップに不可欠だと思うので。
- ・自分1人だけが意識を変えたとしても施設全体のレベルは良くなると思うので、他の職員へも伝えていきたいです。
- ・周りの意識が変わることで、今まで食べられないと思っていた人が食べる楽しみを取り戻せるようになればいいと思います。
- ・主体的に実践しているメンバーがいるのであえて自分がしなくても良いと思う。
- ・実践したいと思う。
- ・自ら企画するには自分の知識が足りなすぎる、もっと理解したうえでならば考える。

【Q5：実技セミナーで今後取り上げてもらいたい内容はありますか？】

- ・実際に食べられなかった患者が食べられるようになるまでの経過をなど具体的に聞きたい。
- ・普通食からだんだん粥、きざみ、ミキサーなどレベル低下していく方が多くなってきているので、いくらかでもそれを抑える方法など。
- ・スプーンの運び方、ベッド上、車椅子でのポジショニングの仕方。
- ・KTバランスチャートの作成の実技と評価の実技をして頂きたい。
- ・口腔ケア。
- ・認知症患者の食事介助。
- ・各拘縮を考慮しての食事介助（腕など）
- ・食思不良となった患者の意欲を引く出すポイントなど、味覚が刺激され食べ物や食欲のわく食べ物などについて。

- ・食形態について。
- ・高齢者の方の摂取不良（口を開けない、飲み込めないなど）問題解決が難しい症例へのアプローチ
- ・むせ込み時の対応。
- ・KTバランスチャートの実際の判断方法。

【Q6:KTSM実技認定審査を受けることを希望しますか？】



今回のセミナーは助成金採択のため宮城県栗原市、登米市、大崎市の地域限定での開催とし医療機関、福祉施設から33名の参加者で、小山先生の講義、口腔ケア、ポジショニング、食事介助などの実技を学んで頂きました。

今後も実技セミナーを開催し患者様の「食べたい願い」に繋げるため地域に広げていきたいと思っております。ご参加して頂いた受講生、講師の先生、アドバイザーの皆様、サポートの皆様、ご協力頂きありがとうございました。

ご参加いただいた皆様
ありがとうございました！



最後に、今回の実技セミナーの記事が大崎タイムス新聞の県北NEWに掲載されましたので紹介いたします。

食事介助を学ぶ 栗原で実技セミナー



【栗原支局】県立循環器・呼吸器病センター（栗原市瀬峰）で8

日、包括的食支援スキルと食事介助について学ぶ「実技セミナー」

患者の立場になって行われた口腔ケアや食事介助の実技セミナー

.....
瀬峰」が開かれた。

同センターと三浦病院（大崎市古川）が主催し、NPO法人口から食べる幸せを守る会（神奈川県伊勢原市）が共催し開いた。同法人の理事長で看護師の小山珠美さんが口腔ケアや食事介助について講義を行ったほか、看

護師や介護職員らが患者役になって、実技セミナーを実施した。

実技セミナーでは、看護師や介護職員が患者役になり、参加者は患者から見える位置に食べ物を配置し、手が動かせる患者にはそつと指を添えて、口に運ぶ動作を助け、「自分で食べる幸せ」をサポートするなど、患者の自立性を促す介助方法について学んでいた。